

## 卒業教育開発センター

### 1. スタッフ

センター長（兼）教授 和佐 勝史

その他、教授1名、准教授1名、助教4名、事務職員1名、事務補佐員2名

（兼任を含む。また、教授、助教、事務職員は特任を含む。）

### 2. 活動内容

#### (1) 発足経緯と目的

平成16年度にスタートした新臨床研修制度では、研修医は単一の各医局に所属するのではなく、幅広い診療能力を身に付けられる総合診療方式（スーパーローテート）により各診療科を異動しながら臨床研修を行うこととなった。また研修プログラムや研修医の管理、評価などを行う管理体制も求められていることから、本学では新制度開始に先立って平成15年度に「卒業臨床研修センター」を設置した。平成17年度に新制度での第一期修了生を送り出し、教育を継続する形で平成18年度に臨床研修修了者を対象とする専門医育成プログラムを開始。平成20年9月には現在の「卒業教育開発センター」に改称し、臨床研修医のための阪大プログラムの企画運営と、その後の専門医取得を目指す専門研修プログラムの支援、さらには生涯教育までの一貫した医師の教育体制を目的として活動している。

#### (2) 主な活動内容

##### 1) 臨床研修

- ・臨床研修プログラムの作成と実施
- ・臨床研修指定病院としての厚生労働省への各種届出・医師臨床研修マッチングへの参加
- ・研修医の募集・採用試験の実施
- ・研修医向け勉強会の企画・立案
- ・研修医のメンタリング
- ・研修医及び指導医の評価
- ・研修医の事務管理
- ・指導医養成講習会の企画、実施
- ・研修管理委員会の開催運営
- ・研修協力病院、研修協力施設との連絡、連携

##### 2) 専門研修

- ・専門研修プログラムの全体把握
- ・プログラム説明会開催など専攻医募集支援
- ・プログラム参加者データ管理
- ・専門医・認定医取得状況調査
- ・専門研修プログラム連絡協議会の開催運営

- ・専攻医向けセミナーなどの情報提供

3) スキルズラボの管理運営

4) CST (Cadaver Surgical Training) の管理運営

### 3. 活動体制

本院では、医学部における卒前教育と医学部附属病院における卒業教育との連携協力を推進するため、センター長及び副センター長がそれぞれ医学部医学科教育センターのセンター長及び副センター長を兼務する体制をとっている。当センターでは、各診療科等の臨床研修委員や専門研修担当者との連携を図りつつ、臨床研修制度の運営や各診療科が運営する専門研修プログラムの支援等を行っている。また、毎月1回センター会議を開催し、研修の進捗状況と指導医等による研修医評価等を確認するとともに、研修医からの要望事項を共有し研修制度の改善に努めている。また、下記委員会と連携しながら臨床研修プログラムの円滑な実施と改善に努めている。

- ・臨床研修委員会：院内各診療科の研修委員が出席  
(年4回開催)
- ・臨床研修管理委員会：院外の研修協力病院、地域医療の研修責任者が出席 (年4回開催)
- ・臨床研修検討委員会：院内の病院長、指名された診療科長、試験委員長等が出席 (随時)

### 4. 活動実績

#### (1) 臨床研修

##### 1) 平成30年度研修医数

平成30年4月1日現在の研修医数は81名（院外を含む）である。各年度別の研修医数は以下のとおりである。

##### i) 平成29年度研修医（2年目）

プログラム名	本学卒業生	他学卒業生	合計
大阪大学コース	2名	7名	9名
協力型研修病院・大阪大学コース	7名	15名	22名
小児科重点	0名	0名	0名
産科婦人科重点	0名	1名	1名
合計	9名	23名	32名

##### ii) 平成30年度研修医（1年目）

プログラム名	本学卒業生	他学卒業生	合計
大阪大学コース	1名	9名	10名

協力型研修病院・大阪大学コース	10名	28名	38名
小児科重点	0名	0名	0名
産科婦人科重点	0名	1名	1名
合計	11名	38名	49名

2) 平成30年度臨床研修プログラムへの対応

平成22年度から内科・救急・地域医療が必修科目となり、外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科が選択必修科目に変更されたことに伴い、これらをすべて経験できるプログラムに変更した。さらに、これら以外にもACLS（二次救命処置）講習会、リスクマネジメント講習会、院内感染対策講習会、CPC（病理カンファレンス）を開催している。研修医に対するきめ細かい指導およびフォローを目的として、平成26年度よりメンタリング制度を導入した。国際化を推進するため、平成28年度より英語による診療を学ぶ「Case discussions in English for Residents (CDER)」を開始した。平成29年度よりハーフディバックとして火曜日夕方を研修医勉強会の時間として設定し、CDERやレクチャー、ケースプレゼンテーション、実習を行った。平成29年度よりプライマリ・ケアの研修を充実させるため、沖縄地方の離島研修を開始した。平成30年度より職員用借上げ宿舎の一部を研修医が使えるようにした。

3) 平成31年度医員(研修医)募集について

i) プログラム

a. プログラム方式

本院（基幹型臨床研修病院）と学外協力型臨床研修病院で病院群をつくる。

b. 募集人員：61名

- ・大阪大学コース：1年目、2年目とも本院
- ・協力型研修病院・大阪大学コース：  
1年目学外研修病院/2年目本院
- ・阪大プログラム各重点コース：大阪大学  
コースと同じ内容

ii) 研修方法（大阪大学コース）

a. 1年目研修

内科（6ヶ月）：6グループの内科系診療科から2グループを選択し、3ヶ月ずつ研修する。

救急（3ヶ月）：本院含む4施設から1施設を3ヶ月研修する。

選択必修科目（3ヶ月）：外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科から2～3科を3ヶ月研修する。

b. 2年目研修

1年目に研修できなかった選択必修科を研修し、残りの期間（8カ月）を全診療科から自由に選択する。

地域医療（1ヶ月）：地域のクリニックまた

は離島医療機関から1施設を1～2ヶ月研修する。

iii) 研修方法（協力型研修病院・大阪大学コース）学外協力研修病院24病院から1年目研修病院を選択して研修する。

(2) 専門研修

1) 各診療科が卒後3年目以降の専攻医を対象として連携病院と協力して行う専門研修プログラムへの参加登録状況を把握し、関係機関へ報告をした。本プログラムは専門医や認定医の取得および研究マインドの高い優秀な医師の育成を目的としており、臓器移植、再生医療、国際医療などを使命とし推進する本院と、地域の中核病院が連携、得意分野を相互に補完することにより、上記目標に効率的かつ高レベルで到達できる環境が整っている。平成30年度は7月7日（土）に中之島センターでプログラム説明会を開催し35診療科がブース形式で懇談を行い80名を超える参加者を得た。

2) 平成30年度 プログラム新規参加者数：160名

うち、臨床研修先が本院のもの	13名(8.1%)
他医療機関のもの	147名(91.9%)
卒業大学が本学のもの	60名(37.5%)
他大学のもの	100名(62.5%)

3) 平成30年度 プログラム参加者総数：1393名

うち、本学医学系研究科大学院生 266名(19.1%)

4) 専門研修プログラム連絡協議会

平成31年3月19日に本院病院長以下各診療科等の担当者、当センター長以下教員43名および連携55施設61名が参加、プログラム参加登録状況、専門医取得状況、各施設との連携状況等について共有した。

(3) スキルズラボの管理運営

<平成30年度実績>

1) 利用件数（予約件数）：666件

（医師231件、看護師208件、研修医25件、その他202件）

2) 利用人数：4,154名

（看護師1,952名、医学生1,342名、医師494名、研修医173名、その他193名）

(4) CST (Cadaver Surgical Training) の管理運営

<平成30年度実績>

1) 専門委員会開催回数：1回（平成31年3月6日）

2) 実施回数：1回（5診療科8事業）

（平成31年3月16日、17日）

3) 参加人数：69名（参加者53名＋見学者16名）